

恵山の火山活動解説資料（令和8年9月）

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

山頂火口原付近では、近年、GNSS 繰り返し観測で浅部のごくわずかな膨張を示すと考えられる変化がみられており、一時的な地震増加が時折認められていますが、今期間は低調に経過しました。各火口の噴気活動など熱活動は低調に推移しています。

火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1、図2-①～②、図3～6）

監視カメラによる観測では、Y火口の噴気の高さは火口縁上100m以下で経過しており、噴気活動は低調な状態です。

29日に国土交通省北海道開発局の協力により実施した上空からの観測では、昨年の観測（2025年8月）と比べ、X火口及びY火口、水無沢上流部の噴気や地熱域の状況に特段の変化は認められませんでした。

・地震及び微動の発生状況（図2-③～④）

今期間、火山性地震は少なく低調に推移しました。

火山性微動は観測されていません。

・地殻変動の状況（図2-⑤）

GNSS連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められません。



図1 恵山 南西側から見た山頂部の状況（高岱監視カメラによる）

この火山活動解説資料は、気象庁のホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』、『電子地形図（タイル）』及び『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています。

今回の火山活動解説資料（令和8年10月分）は令和8年11月10日に発表する予定です。

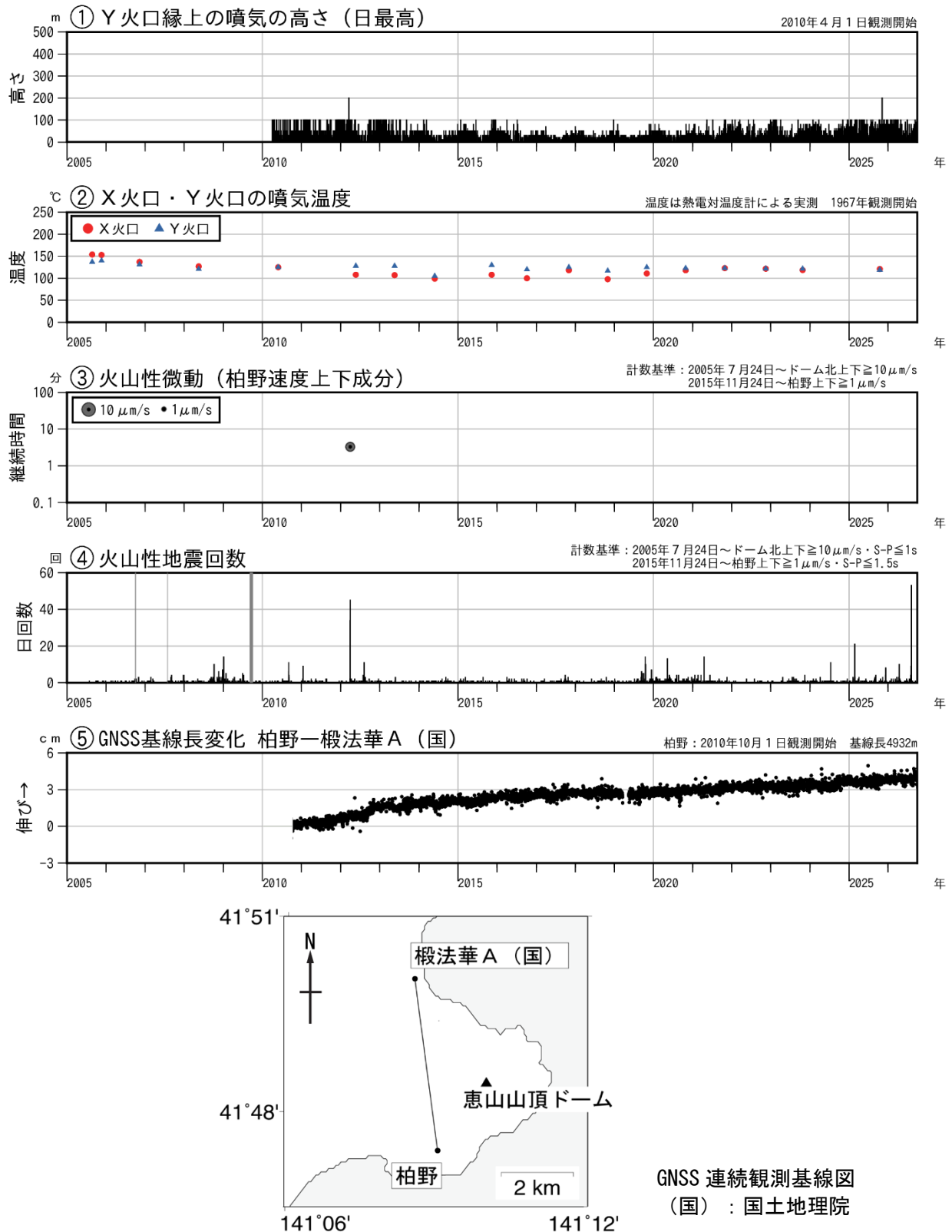


図2 恵山 火山活動経過図（2005年7月～2026年9月）
④の灰色部分は機器障害による欠測期間を示します。
⑤のグラフは上図の基線に対応しています。
⑤のグラフの空白部分は欠測を示します。

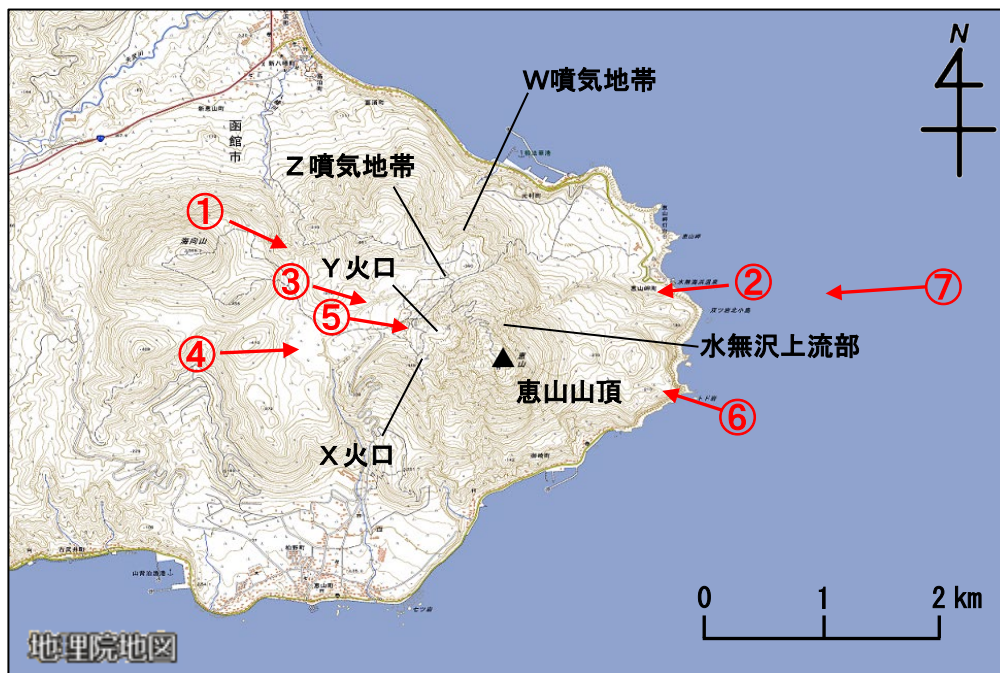


図3 恵山 火口周辺図と写真の撮影方向（矢印）



図4 恵山 火口周辺の状況

上：北西側上空（図3の①）から撮影 下：東側上空（図3の②）から撮影

- ・これまでの観測と同様にX火口及びY火口内から弱い噴気が認められ、その状況に特段の変化は認められませんでした。
- ・その他の領域からは噴気は認められませんでした。

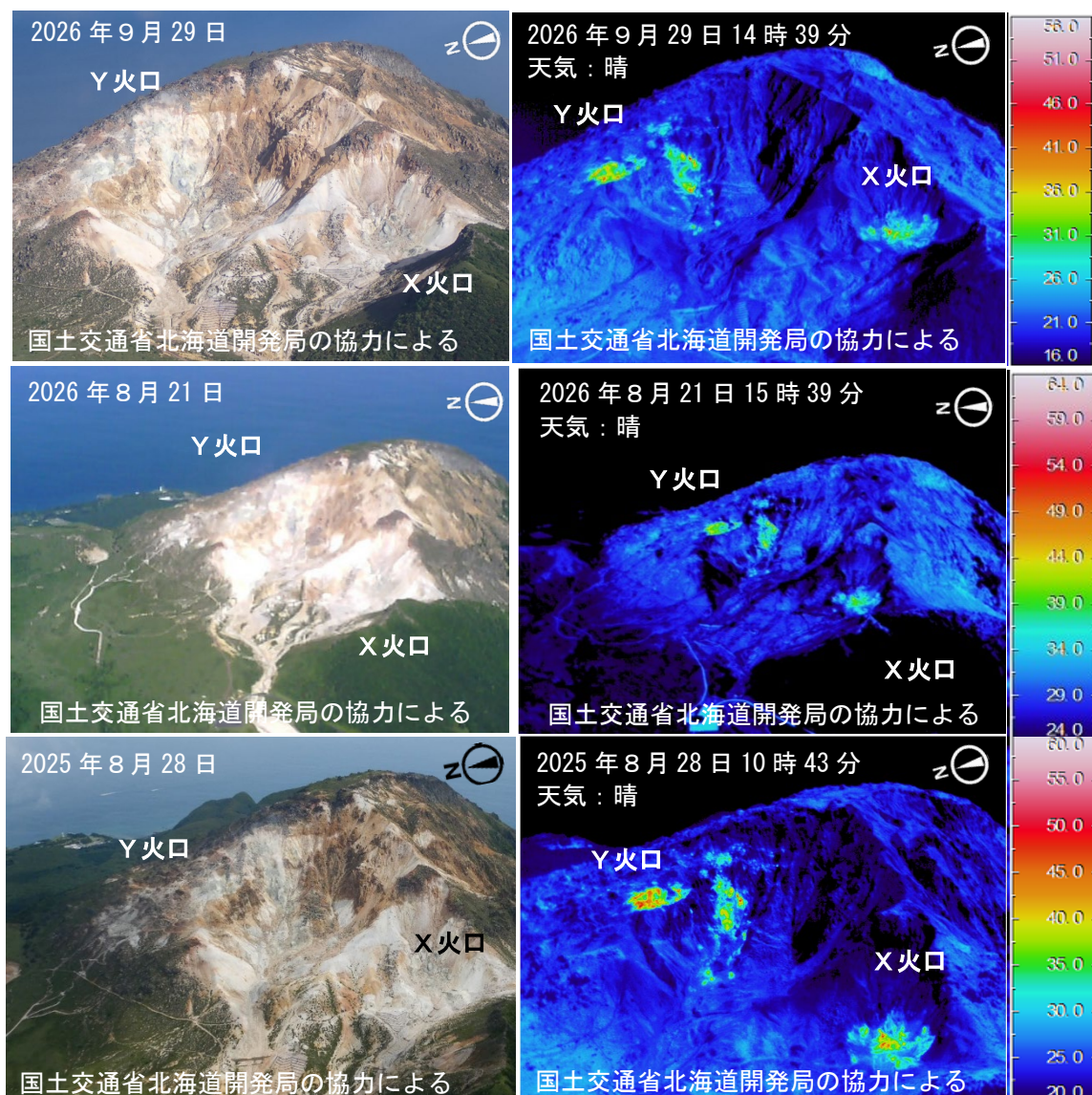


図5 恵山 赤外熱映像装置によるX火口及びY火口の地表面温度分布（西側上空から撮影）

上段：図3の③から撮影

中段：図3の④から撮影

下段：図3の⑤から撮影

- ・前回の観測（2026年8月）と同様に、昨年の観測（2025年8月）と比べて、地表面温度分布に特段の変化は認められませんでした。



図6 恵山 赤外熱映像装置による水無沢上流部の地表面温度分布

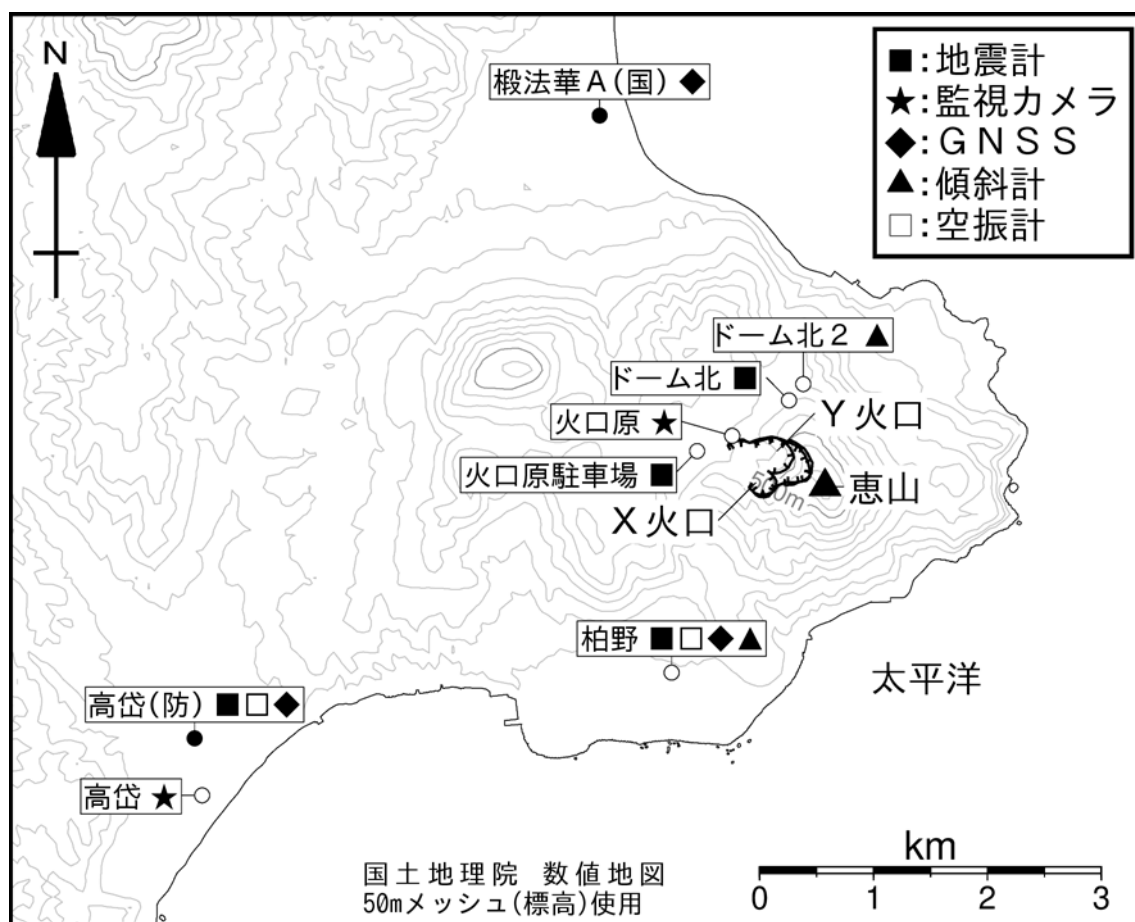
上段：東側上空（図3の②）から撮影

中段：南東側上空（図3の⑥）から撮影

下段：東側上空（図3の⑦）から撮影

白破線は、水無沢南東側に存在する弱い地熱域の位置を示しています。

- ・ 前回の観測（2026年8月）と同様に、昨年の観測（2025年8月）と比べて、地表面温度分布に特段の変化は認められませんでした。



小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は他機関の観測点位置を示しています。
(国):国土地理院、(防):国立研究開発法人防災科学技術研究所

図7 恵山 観測点配置図